

課題発見・解決学習

校長 藤井 和彦

立春を過ぎてなお、厳しい冷え込みの続く今年の冬です。春の訪れはまだまだといった今日この頃です。それでも、先日六年生は高原中学校入学説明会に臨み、本校の新入学児童説明会を19日に控え、年度末も刻々と近づいてきました。

さて、本県では現在、教育改革の中心を広島版「学びの革新」アクション・プランに基づいた授業改善に焦点を当てて、各学校において具体的な取り組みを進めています。それは、以前のような教師主導型の授業展開から脱却し、授業を児童生徒が主体の「課題発見・解決学習」に転換させることをねらっています。本校にとっても焦眉の急を要する課題です。

毎年この時期は、次年度へ向け、今年度の教育研究の成果と課題について具体的に整理を進めます。その結果、「児童の学力」の現状は、国語科に比べて算数科にやや課題があることが明らかになってきました。

そこで、一学期後半からは算数科の授業研究を中心にして、全ての教科学習において、本時のねらいに迫る学習課題を先生と児童が一緒に考えて設定し、児童が自ら結論や答えの予想を立て、解決への糸口を探り、まずは自分で挑戦してみる「自力解決場面」を保証することにも、実験観察あるいは立式、資料分析、既習事項、文章読解等を通して、集団で検証・立証していく「集団解決」によって結論を引き出していく「問題解決的な学び」の確立へ向けて取り組みをすすめていきます。

子供達は今日も姿勢を正して、挙手して自らの考えを発表し、また友達の考えからも多くを学んでいます。我々も負けないように、教師力向上へ向け頑張っているところです。